

ほうこん

題字・清水英夫

GALAC・1月号・付録
2012年1月6日発行(毎月1回6日発行)
昭和43年3月8日第三種郵便物許可
〒160-0022
東京都新宿区新宿5-10-14 中村ビル2F
NPO法人放送批評懇談会
TEL (03)5379-5521/FAX (03)5379-5510
ホームページ <http://www.houkon.jp/>
Eメール kondankai@houkon.jp
編集・橋本 隆

2011年11月28日、11月理事会を開催した。

1 委員会活動報告

◇出版事業委員会 飯田副編集長
・2012年1月号校了。「第49回上期ギャラクシー賞発表号」。
表紙は尾野真千子さん。ザ・パースンは松本正之さん。
・12月号の「韓流特集号」でミスがあり、当該会社より指摘があった。そこで急遽訂正とお詫びを掲載した。

・2月号は特集「番組難民増殖中」(仮題)。チャンネル数が増えたことで番組情報を視聴者が取り損なっていることが多いのではないかとこの点に着目。視聴者に情報が正確に届けられているか検証する。表紙が小泉今日子さん、ザ・パースンは佐々木宏さん。

◇選奨事業委員会 小田桐委員長
・第3回ギャラクシー賞検討小委員会をこの理事会前に開催した。ギャラクシー賞の基本理念、存在意義、他の賞との違いの文章化、評価基準明確化、それらの公開方法等について議論した。意見は集約の方向に向かっている。

これから細部を詰め、他の論議対象も議論する。具体的なものの発表はもう少し待って欲しい。

来年春頃までを目安に結論を出し、理事会に諮り決定し、次期第50回ギャラクシー賞選考には万全な形で臨みたい。

〈テレビ委員会〉 上滝委員長
・10月30日に10月度の月評会を開き、引き続きギャラクシー賞の選考をした。

応募作品129番組、月間賞作

品24番組から7作品を選んだ。(その後、選考過程の説明があった。詳細は「GALAC」誌1月号に掲載、入賞作品名も同様なので略します。他委員会も同様です)

・テレビ部門の「入賞作品を観て制作者と語る会」は、今回NHKの協力を得て開催する。日程など詰めているところ。決まり次第報告する。

〈ラジオ委員会〉 桜井委員長
・10月27日に、ドラマ、報道・ドキュメンタリー部門の、そして10月31日に生ワイド、音楽&エンタテインメント部門のギャラクシー賞上期の選考をした。8作品を入賞候補作品として選んだ。

特徴として、過去の重大ニュース、例えば同時多発テロなどを取り込んで、それらから東日本震災を視るといった構成が多かった。

ただ、震災が甚大で、まだ様々な問題を抱えて現在進行形なために、単発1本、1時間程度の番組では表現し切れないケースが多く、評価するのは難しいと各委員から意見が出た。

全体的には、昨年まではドラマに

GALAC「TV BEST&WORST」原稿募集中!

★正会員の皆さま、ご家族、お知り合いの方の投稿をお待ちしています!

<投稿ルール>

- 1) 2011年11月のテレビ番組(地上波、BS、CS、CATVなど日本で視聴できる番組すべて)から3つ選び、自由に論じてください。
番組名の頭に○(良い)×(悪い)マークを忘れずにつけてください。
- 2) 本文は25字詰め12行でご執筆ください。
お名前とふりがな、職業、年齢(なくてもOK)もお忘れなく。
- 3) 原稿締切は12月12日(月)です。
- 4) 匿名原稿は受け付けません。
掲載の決定は編集部にお任せください。
原稿の返却、採用・不採用の問い合わせには応じることができません。また、原稿は趣旨を損なわずに手を入れることがあります。
- 5) ご応募くださった方には、もれなくGALAC1冊お送りいたします。また、採用の方には、謝礼として1000円分のクオカードを進呈いたします。
- 6) ホームページ、郵送、ファクスで受け付けます。
宛先 〒160-0022 東京都新宿区新宿5-10-14 中村ビル GALAC編集部
ホームページ <http://www.houkon.jp/galac/toukou.html>
FAX 03-5379-5510

☆ギャラクシー賞マイベストTV賞☆

2011年11月度の投票も始まりました!

ギャラクシー賞マイベストTV賞2011年11月度作品の投票を開始します。
正会員の皆さまには、メール、ファクスで改めてお知らせします。
正会員の皆さまのご参加をお待ちしています!

マイベストTV賞 携帯サイト、オープン中!
投票はこちらからもできます
<http://www.houkon.jp/m>



【投稿のお願い】 ご意見をお待ちしています!

会報「ほうこん」では、会員の皆さまのご意見を反映させるため、「投稿欄」を設けております。どのようなご意見でも結構ですので、ぜひ事務局までご投稿ください。投稿の字数は400字程度でお願いします。

Eメール (kondankai@houkon.jp)、FAX (03-5379-5510) でお送りください。お待ちしております。

元気があったが、今年はドキュメンタリーに面白い作品が多かったという印象。

・11月21日に月例会を開催。青森放送の5時間半の生ワイドを聴取し批評した。面白かった。

〔CM委員会〕 五井委員長

・10月25日に選考会を開催した。

前回理事会でも報告したように、CM委員会は応募作品をDVDにまとめて全委員に事前に送り、それぞれの評価を前もって投票するシステムを取っている。そして、12作品を入賞候補作品として選んだ。

大震災から半年以上経って震災を意識したCMの見え方がどうという格好なのか危惧していた。結果として、震災を意識したCMは3作品入った。地域CMは2作品が入った。

なお、先程も申し上げたように投票形式であったが、満票を取った作品がひとつあった。

〔報道活動委員会〕 碓井委員長

・10月22日に選考会をした。前回の理事会で報告した通りである。応募本数6本から2本の入賞候補作を選出した。

選ばれた活動は遜色ないものであ

作品の作成を待つ。

更に、費用、梱包方法、運搬方法の確認をした。また、新しいトロフィーの図柄を入れた賞状のデザインの提示もあり、了承した。

なお、最終決定は理事会の承認が必要とは伝えて確認してある。3月末までには、未定の要素も全て決定し、皆さんにお諮りできるようにしたい。

◇次回理事会

2011年12月21日(水)

2012年1月25日(水)

〔出席〕 音好宏、橋本隆、上滝徹也、小田桐誠、藤田真文、桜井聖子、五井千鶴子、碓井広義、滝野俊一、飯田みか、入江たのし、河野尚行、嶋田親一、稗田政憲、中島好登

会議記録

〔11月〕

18日 出版編集委員会

21日 (選奨) ラジオ定例部会

28日 ギャラクシー賞検討小委員会

29日 (選奨) テレビ月評会

る。下期に向けてPR活動を開始している。

・先週19日、(ギャラクシー賞受賞「報道活動」を見て、制作者と語る会)を開催した。嵐のような強い雨風の中ではあったが、入賞作品の制作者6人が出席してくださった。

参加者も70名余で、制作者からの熱い思い、活発な質問、意見交換があり、アンケートなどでも大好評で次回を期待する声が多くあった。

◇企画事業委員会 藤田委員長

・前回の報告にあったように開催日を2月28日に変更。

基調講演は増田寛也氏に決定。

デイスカッション「3・11後の放送ジャーナリズム」と「ポスト7・24」(地デジ完了によるメディア戦略)のふたつのセッションを企画しているが、その登壇者は随時交渉中。数人内定。年内には確定する。

◇マイベストTV賞プロジェクト

滝野プロジェクトリーダー

・今まで特別投票をいろいろやったが、今度は「長寿番組」。

実際の投票開始は1月上旬。

2. その他

①第49回ギャラクシー賞贈賞式の件

長年の疑問を解決する正念場

村上雅通

今年三月、熊本放送を退職し、四月から長崎県立大学で教鞭をとる新米教師です。

ジャーナリズム論やマスコミ文章演習などを担当していますが、要領を得ず試行錯誤の繰り返しです。一方で、熊本放送とは契約を結び、今でもテレビドキュメンタリーに足を突っ込んでいます。来年には、長崎でラジオ番組を立ち上げる計画で、今後も放送の現場に関わります。進行形のジャーナリズムを学生に伝えるという大義と共に、私の長年の疑問を解決するという目標があるからです。それは、水俣病の取材で常に見え隠れする「歯車」の究明です。

いつ、誰が作ったのか、答えられる人はいませんが、これまで水俣病の行方を左右してきました。その手がかりを、私は先の戦争に見出そうとしています。日本が戦争の検証をしつかりやっつけていけば、水俣病問題がこんなに長引くことはなかった、という仮説を立てました。果たして答えまで行き着くことが出来るか、これからが正念場です。

新入正会員自己紹介

いち生活者として放送を考えたい

石塚一真

この度は入会をご承認頂き、ありがとうございます。私は、学生時代からテレビやラジオが大好きで、大学時代には仲間と共にテレビ番組の自主製作サークルを上げたほどでした。卒業後放送とは別の業界に就職し、現在に至っておりますが、放送への関心が尽きず、今でも、いち視聴者・聴取者として興味深くメディアを見つめております。

近年特にラジオに注目しており、「ギャラクシー賞入賞作品を聴いて語り合う会」に参加させて頂いた際に入会のご案内があったのをきっかけに、入会の申込みに至りました。

制作者や研究者の方々など、名だたるプロフェッショナルの皆様が数多く名を連ねる中で、私のような一般人がどれだけ貢献出来るか分かりませんが、会の活動を通じて、いち生活者として日々の放送について感じた事について発言を行い、また、放送番組をより深く理解して参りたいと考えております。何卒よろしくお願いたします。

橋本専務理事

・専務理事より「次回式典の準備に入りたい。ついでには総合プロデューサーを決めたい。今年同様に入江たのし氏を推薦する」との提案があった。↓全員一致で了承

・入江氏からの挨拶。

50年の節目の前年と言うことで、特別なことは考えていない。とは言え、デジタル化して初めての式典、それなりの工夫を企画したい。基本的には、今までのものを踏襲する。

②トロフィーの件 橋本専務理事

・しばらく報告する進展がなく心配していたが、先日松永真氏と打ち合わせをした。少し進展した。その席には、コーディネーターであり実際のトロフィーの製造の責任者となる(株)美留土社長の曾我部啓治氏が参加した。

そこで、具体的なトロフィーの大きさ(大中小の3タイプ)―大賞、優秀賞、選奨にそれぞれ対応)、材質は鉄、台座付き等の提案があり、基本的には了承した。

より魅力的なトロフィーとするための加工方法は今後更なる検討と試